



# ADRC Highlights

Vol.87

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

February 16, 2004

## 「アジア防災会議 2004」がカンボジア・シェムリアップで開催、23カ国138名の防災関係者が参加

2004年2月4-6日、カンボジア国シェムリアップにて、アジア防災会議 2004 が開催され、カンボジアなどアジア地域を中心に合計 23 カ国、ISDR 事務局などの国連機関、国際機関他から、関係者 130 名が一同に会



ADRC メンバー国との集合写真

しました。この会議は、第 6 回アジア防災センター国際会議と第 3 回国際防災戦略 (ISDR) アジア会合の 2 つより構成され、日本政府、カンボジア政府、国連国際防災戦略事務局 (UN-ISDR)、アジア防災センター (ADRC) の主催によって開かれたものでした。会議では、カンボジアのフンセン首相が講演を行い、当会議の成功とアジア地域における防災活動への支持を強く表明しました。また、佐藤剛男内閣府副大臣兼首相特別補佐官とカンボジア NCDM のニム・バンダ第一副総裁の共同議長より議長サマリーが取りまとめられました。

### 「アジア防災会議 2004」開催の意義・目的

本会議の目的は、アジア地域における防災の枠組みを構築したうえで、防災対策を国および地方の基本政策へ取り入れるべく、リスクや脆弱性を軽減するための短期・長期対策を提示することでありました。

2003年1月15-17日に神戸で開催されたアジア防災会議 2003 では、アジア地域での災害による被害軽減のために各国が取組む必要がある 4 つの点が指摘されました：都市の脆弱性と災害、気候変動への対応、新たな課題へ取り組むための様々な学問分野やセクター間での協力、情報管理能力の強化です。

アジア防災会議 2003 およびその後の会合で繰り返し強調されたように、防災への総合的なアプローチは必要不可欠な要素であります。アジア地域の国々は、自国の国家計画プロセスに、TDRM (総合的な防災対策) アプローチといった防災への総合的・戦略的アプローチを取り込むことを推し進め必要があります。

アジア防災会議 2004 では、このような考えを行動に移し、コミュニティレベルで防災プログラムを制度化し、防災サイクルの中にあるギャップを埋めるための効果的な方策を定めることが重要であるとしました。そのためには、具体的な方策、ツール、構造の改良が必要であ

り、枠組作りは、人々やコミュニティのニーズにきめ細やかに応える行動計画につなげなければなりません。

こうした問題意識のもと、日本政府は、防災分野において実りある国際協力をさらに促進するため、研修員の受入や専門家の派遣、防災プログラムの充実化など人材面・技術面での支援を行っていくことを表明しました。

結果的に、本会議では、下記の重点行動項目が確認されました：各国の防災対策の現状の見直し、防災に関する国家政策の発展・進化、防災へのハード面・ソフト面(人材育成など)の投資、情報伝達と情報管理、防災行政の全てのレベルにおけるパートナーシップの強化。



ISDR 会議ではフンセン首相が講演

### 「国連防災世界会議」開催に向けて

当会議は、2005年に兵庫県で開催される「国連防災世界会議」へ向けた準備会合としての役割を担うものとなりました。世界会議は、より安全な世界へ向けた各種取り組みにおける重要な節目となる



佐藤副大臣とフンセン首相との二者会談

ことが期待されています。その意味では、今回のアジア防災会議 2004 は、世界会議へ向けて、アジア地域での災害による被害の軽減へ向け、課題やさらなる具体的な行動を特定していくための貴重な基盤を提供したものと考えられます。最後に、アジア防災会議 2004 という重要な会議の開催にあたり、カンボジア国政府のご尽力・ご協力に対し厚くお礼を申し上げます。

なお、会議の様子は、2004年2月7日、NHKの総合テレビの朝7時のニュースにて放映されました。また、議長サマリーについては、ADRC ホームページにて掲載される予定です。当会議についての詳細は、角崎主任研究員 (tsunozaki@adrc.or.jp) または河内 (kochi@adrc.or.jp) までお願いします。

ご意見・ご要望等があれば右記までご連絡ください。

編集・発行：Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 ひと未来館 5 F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)5540 FAX: 078(230)5546

誌代・送料：無料 / 毎月 2 回発行 (予定)